

(別添3)

【八百津町】

校務DX計画

1. 校務DX化の現状

令和6年度の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検によると、以下の校務についてDX化が達成できている。

(1) 学校と保護者間の連絡ツールの整備

令和4年度より学校と保護者間の連絡アプリを更新したところであり、児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡についてDX化を達成できている。加えて連絡アプリでは学校から保護者へ発信するお便り・配布物を電子データで送信できるためペーパーレス化についても推進している。

(2) 持ち帰り学習の環境整備

本町はセルラーモデルの端末を用いて、モバイル回線で通信を行っているため、どの家庭でも端末を持ち帰り、家庭学習で活用できる体制が整っている。また、令和2年度よりAIドリルを導入しており、家庭での活用も行われているが進捗確認の徹底等が今後の課題である。

(3) 電子決裁ツールの整備

令和5年度より学校に電子決裁ツールを整備し、メール等で通達された文書についての電子決裁が進んでいる。加えて電子決裁ツールは学校間の文書連絡・資料送付も可能であるため、FAX・押印の原則廃止に向けて推進している状況である。

(4) 学校内の連絡のDX化

全ての教職員がグループウェアやクラウドサービスを活用できる体制を整備しており、教職員間における職員会議等の資料の共有や日常的な連絡や情報共有が一部DX化している。一方で、依然として学校から教職員に紙で提出を求める書類や紙で管理している書類は多く、さらに紙の削減に向けて推進している状況である。

2. 今後の取り組みについて

(1) 校務系ネットワーク・学習系ネットワークの整備

本町では学習系と校務系のネットワークを完全に分離し構築されているが、「校務系と学習系のネットワーク統合」、「校務システムのクラウド化」といった国の示した方向性を踏まえ、各システムの更新時期に併せた再構築を検討する。

(2) 次期校務支援システムの導入

現在の校務支援システムは閉鎖系ネットワークによるオンプレミス型で運用されており、学習系とのデータ連携が不十分であるという課題がある。今後クラウド型の次期校務支援システムの導入に向けて県域の共同調達に参加する。校務支援システムのクラウド化に併せて、校務系で取り扱う名簿情報と学習系で取り扱う名簿情報を同期する等、異なるシステムで同じ情報を入力しない仕組みの整備を検討する。

（３）クラウドサービスの活用推進

端末とクラウドサービスの活用により、従来の紙媒体だけでは収集できなかった学習での各種教育データ（端末の操作、教材・学習ツールの利用履歴など）がログとして取得できるように整備していく。この学習ログに加え、児童生徒の出席などの情報を統合し、可視化・分析するダッシュボードの整備についても検討する。先進自治体の整備や活用状況も参考に整備を進め、校務と授業の両方の改善につなげる。

（４）教育情報セキュリティポリシーの改訂

新たな教育ネットワークの整備を実現するにあたり、教職員一人ひとりに合った柔軟かつ安全な働き方が可能になることを見込んでおり、そのためには教育情報セキュリティポリシーの改訂が必要となる。